産業新聞　2021.4.19

CC工組

東京で実地研修

1年半ぶり 設備保全テーマ

全国コイルセンター工業組合（理事長＝小河通治・小河商店社長）は16―17日、千葉市の高度ポリテクセンターで、設備機械の自主保全をテーマとした講習会を開催した。東京での実地研修は1年半ぶりで、新型コロナウイルス感染拡大後では初めて。ソーシャルディスタンスを確保し、換気を良くした状態で行われた。

コロナ対策を万全にして開催

設備保全セミナーは1年ごとに東京、大阪、名古屋の各地区で実施しており、昨年は名古屋で開催された。高度ポリテクセンターの協力を受け、「空気圧設備」「回転機械」「締結部品」「伝達装置」「電動機周り」「技能伝承」に関する6つの講座を設けている。

第1回の講座となった16―17日は「空気圧設備のトラブルと省エネ対策―自社でできる設備保全―」と題して、アクチュエーターやソレノイドバルブ、空気圧回路、コンプレッサーなどの構造や仕組みについて講義が行われた。稼働中の安全な点検方法や他社での損傷・事故の事例を把握し、生産性向上につながる技術・技能を学んだ。

講師を務めた高度ポリテクセンターの竹野俊夫准教授はコイルセンター企業で実際に起きたトラブルをケーススタディーで取り上げ、「故障原因を特定したと思い、部品発注まで済ませたが、実際は別の個所が原因だった」という事例を紹介。なぜなぜ分析の手法を用いて、根本の原因を追求することが重要と説いた。